

平成30年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 府立北野高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおよそ計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・数値の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

資料2-4

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績(前々年度)		実績		実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績(前々年度)	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
						目標値	実績	目標値	実績										コメント	評価
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る 【小項目(はぐくみたい)】 ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力 ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①言語活用能力・ICT活用能力	継続	校内外成果発表会の実施	校内外成果発表会の発表本数	校内758 校外24 (校内966) (校外8)	校内750 校外25	校内645 校外24	校外	校内 ●課題研究 中間発表 口頭(プレゼン)発表14、ポスター発表59 最終発表 口頭(プレゼン)発表59 ●SGH課題研究 中間発表 口頭(プレゼン)発表14 最終発表 口頭(プレゼン)発表14 ●学校設定科目「国際情報」理科発表160 英語発表166 統計発表100 ●校内留学プログラム「国際情報」理科発表160 英語発表166 統計発表100 ●京大サマーキャンプ(1人) ●大阪サイエンスフェスティバル(27人) ●科学の甲子園1(6人) ●即興型英語ディベート予選会6 ●即興型英語ディベート大会2(6人) ●博愛高校英語弁論大会1(1人) ●税に関する作文コンクール入賞3 ●SGH全国高校生フォーラム1(2人) ●即興型英語ディベート全国大会1(3人) ●即興型英語ディベート世界大会1(3人) ●大教大附属平野高等学校招待発表1(6人) ●高校生公開討論会3(1人) ●GLHS・O校合同発表会1(14人) ●SGH甲子園1(7人) ●豊後高等学校発表1(6人) ●京大サイエンスフェスティバル1(10人)	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	92.3% (89.9%)	92.0%	92.0%	「国際情報」のアンケート「プレゼンファイルの作成技能が修得できた」、「プレゼン発表の技能が向上した」、「クラス全体としてプレゼンレベルが向上した」、「以前より前年度より発表することが増えた」の肯定率の平均	A	継続	校内外における成果発表会、校内留学講座、英語による講演や大学院留学学生との交流のいずれにおいても、生徒の肯定感が高く、それぞれの取組について、発表させるべく、これまで内容を精選してきた結果であると考えます。 即興型英語ディベートについては、比較的新しい取組であるにもかかわらず、校内だけでなく、積極的に他校との交流を図ることや成果を上げており、今後も継続することにより、さらなる成果を期待する。	A
		②英語運用能力	継続	学内留学講座の実施	参加者数	178人 (168人)	180人	101人	教育者コース 12人 ビジネスコース 30人 心理学コース 19人 環境学コース 10人 *今年度は100人定員としてネイティブ人あたりの生徒数を減らし指導効果の向上をめざしたので、自己評価Bとした。	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	94.9% (83.2%)	95.0%	94.6%	学内留学アンケート「以前より英語でのコミュニケーションが向上した」と感じる生徒の割合が向上した」と感じる生徒の割合が向上した。また、異文化理解教育が充実してきていることにより、今後の成果がより具体的な生徒の姿容として現れることを期待する。	A				
		③英語運用能力	充実	英語による講演・大学院留学学生との交流会の実施	参加者数	790人 (493人)	800人	593人	●外務省出前授業「EUがあなただの学校にやってくる(11月16日)」生徒113人、保護者13人 ●大学院留学学生との交流会 英語系19人 即興型英語ディベート世界大会交流会3人 ●即興型英語ディベートデモンストラーション 1年生320人 ●英語上級セミナーの開催 生徒100人 *今年度は「英語の達人」講演会を取りやめ、新規企画を4つ開始したので自己評価Bとした。 ●第1チャンネル、TOEFLチャレンジの開催 生徒25人	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	100% (79.7%)	90.0%	95.0%	EUがあなただの学校にやってくるのアンケートの「講演会に参加してよかったと思いますか」の肯定率		A	充実		
	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	継続	異文化理解教育の実施	箱外の高校や大学等へ訪問した人数と受け入れた人数の合計(一日交流は含まない)	103人 (108人)	100人	116人	渡航 ●ハワイ45人 ●アメリカ2人 ●シンガポール44人 ●オーストラリア2人 ●インドネシア1人 ●フィリピン1人 ●台湾14人 受入 ●シリアル4人 ●*一日交流の建通高校は除く。	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	84.8% (82.6%)	90.0%	100.0%	ハワイ研修アンケートの肯定率	A		充実			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 【小項目(はぐくみたい)】 ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	⑤共感性・協働性	継続	宿泊研修におけるチームビルディング講座の実施	参加者数	1年生全員	1年生全員	1年生全員	宿泊研修(4月26日・27日)でチームビルディング研修の実施	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	99.4% (95.9%)	95.0%	99.7%	宿泊研修アンケート「宿泊研修はどうでしたか」の肯定率	A	継続	1年生全員を対象とした宿泊研修において、チームビルディング研修を実施しており、課題研究や部活動などにおける協働性が向上していることと考える。 また、異文化理解教育が充実しており、今後の成果がより具体的な生徒の姿容として現れることを期待する。	A	
		⑥バランスのとれた豊かな人間性の育成	継続	部活動の充実	部活動の加入率	94.9% (95.6%)	95.0%	94.5%	加入率 1年94.0% 2年94.9% 平均94.5% 加入人数 運動部660人 文化部378人 合計1038人 延べ加入率103.9%	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	88.5% (86.1%)	90.0%	88.0%	生活アンケート「部(同好会)活動を総合的にどう評価しますか」の肯定率(3学年の肯定的回答数を有効回答数で割る)	B	継続			
		⑦高い志を育む	充実	各界リーダーによる講演会の実施	講演の回数及び講座数	16回 45講座 (13回) (41講座)	15回 50講座	19回 47講座	●「知的世界への冒険」(1年対象)1回 5講座 ●「キャリアガイダンス」(1年対象)1回 14講座 ●「学部学科ガイダンス」(2年対象)1回 12講座 ●SGH課題研究講座(2年対象)英語4回(陳立行氏)、社会1回(岡本正明氏)、理科4回(信川久美子氏) ●SGH課題研究講座(1年対象)3回(松隈一朗氏、谷本涼氏、関野大輔氏) ●各種講演会「防災を考える」1回(野尻紀恵氏) ●勝つための講演1回(39人) ●「今ここにある『韓国』」1回(川口加奈氏) ●「Leave it Love it Live it!」1回(大川柳子氏)	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	93.9% (90.1%)	90.0%	93.0%	「知的世界への冒険」「キャリアガイダンス」「学部学科ガイダンス」の各アンケートの肯定率の平均	A	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 【小項目(はぐくみたい)】 ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑧キャリア教育の推進	継続	若手研究者による学部・学科ガイダンスの実施 社会人による職業ガイダンスの実施	生徒の参加率	100% (100%)	100%	100%	学部学科ガイダンス	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	95.5% (90.2%)	95.0%	97.3%	「学部学科ガイダンス」の肯定率	A	継続	各界リーダーによる講演会は充実しており、アンケートの肯定的回答も高い数値で安定している。また、学部学科ガイダンスでは、肯定的回答率が向上しており、高い志を育むとともに、社会の変化を感じ、自身のキャリアについて考える機会を提供できている。 大学におけるセミナー等への参加については、取組指標の目標値に対して、実績が2クラス分ほど下回っており、学校全体の教育活動における本取組の位置づけを見直すなど、工夫改善が望まれる。	AA	
		⑨高大連携の推進	継続	大学におけるセミナー等への参加	セミナー等に参加した生徒数	619人 (649人)	650人	567人	京都大学 1年宿泊研修京大ツアー 320人、京大サマースクール 2人、京大キャンパスガイド 85人、京大サマーキャンプ 2人 大阪大学 阪大キャンパスツアー-82人、阪大医学部早期医療体験プログラム 1人、学校設定科目「阪大基礎セミナー」5人 大阪教育大学 阪大キャンパスガイド 2人 関西学院大学 「高校生公開討論会」9人 大阪府立大学 「第4回高校生起業家教育講座」2人 奈良県立医科大学 シミュレーションセンター研修 20人 府教育庁主催等 「科学の甲子園」6人、「京都・大阪数学コンテスト」5人 「京大サイエンスフェスティバル」5人	C	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	96.7% (92.8%)	95.0%	89.7%	阪大キャンパスツアー、大教大キャンパスガイド、京大キャンパスガイド、阪大基礎セミナー、1年宿泊研修の肯定率の平均	C	継続			
		⑩授業力向上	充実	校内外の授業見学・研究協議の実施	授業見学・研究協議をした教員の割合	96.7% (95.5%)	100%	96.7%	校内で授業見学または授業公開を1回以上実施した教員の人数の割合(分母は非常勤講師を除く教員数) 実人数 58人 / 60人	B	授業アンケートにおける生徒の肯定回答率	82.8% (73.3%)	83.0%	87.8%	学校教育自己診断(生徒対象)「授業は興味深く満足できるものである」の肯定率	A	継続			
IV. 教員の指導力向上をめざす 【小項目(はぐくみたい)】 ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑪若手教員の指導力向上	継続	他校と連携した研修講座の実施	指導力向上研修の実施回数	24回 (15回)	25回	25回	校内 公開研究授業等 延べ17回 内訳 初任者2人×2回、2年目2人×1回、英語科6人×1回、10年研1人×2回(校内研修)、初任期教員4人×2回(生徒発表指導) 校外 研究発表参加 延べ12人 内訳 春日丘(1)、米原(6)、清水東(1)、清水桜が丘(1)、桜塚(2)、豊中支庁(1)、富岡西(1)、大教大(5)	B	当該アンケートにおける参加教員の肯定回答率	100% (100%)	100%	100%	参加教員のアンケートや感想から読み取れる肯定率	A	継続	授業におけるさまざまな活動やICT機器の活用など、各教科で工夫改善を図っており、教員は生徒の様子を把握しながら授業を展開している。 実験にあたっては、教科担当者全員で事前に準備実験を行い、指導のポイントを整理するとともに、各クラスで実施する際には、授業担当者以外の教員も自主的に加わるなど、教員の自主性・協働性は高く評価できる。	A		
	⑫授業力・指導力向上	継続	保護者を含む外部への授業公開	保護者を含む外部からの見学回数	709人 (658人)	700人	666人	公開授業(保護者参加) 554人 内訳:前期(6月13-14-15日)334人、後期(11月5-6-7日)220人 公開研究授業 府教員等参加数 50人、府教員以外の参加数 62人 内訳 奈良県立医科大学 4、鹿児島県立鶴丸高校 1、大阪教育大学附属天王寺高校 1、神奈川県立湘南高校 2、横浜翠嵐高校 1、柏陽高校 2、沖縄県立那覇中 3、香川県立高松高校 6、浜松北高校 2、中国教育関係者 31、三重県立四日市 1、津 1、伊勢 1、札幌北 2、静岡 2、神奈川県立平塚中等教育学校 1、札幌南 1 他	B	当該アンケートにおける参加者の肯定回答率	97.9% (97.3%)	95.0%	95.0%	保護者の公開授業後アンケートにおける肯定率	A	継続				
	⑬10校が共通で実施する学力調査																			
V. 総合的な学力の測定	⑭大学入試センター試験への参加																			
	⑮大学入試センター試験の結果																			
	⑯課題研究活動																			
VI. 共通の取組	⑰課題研究活動																			
	⑱コンクール・コンテスト等の成果																			
	⑳英語外部検定試験(TOEFLIBTチャレンジ含む)																			
VII. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学																			
	㉒進学実績																			
	㉓国公立大学への進学																			
	㉔海外大学への進学																			

総合評価

北野高校の根本精神が「六稜鏡」であり、それが根付いていることが感じられる。「六稜鏡」の捉え方はさまざまであり、その自由さが一人ひとりに委ねられていることが北野高校の特徴といえる。身につけたい資質・能力として、「高い学力」「英語運用能力」「プレゼンテーション能力・発信力」「リーダーシップ」の4つを掲げ、リーディングスクールとしてのビジョンをオープンにすることで、教員の共通理解を促しており、生徒にも教員に挑戦を促している。多岐にわたる取組を整理し、うまく可視化できていることは高く評価したい。また、様々な学びに向かうことができていることは高く評価したい。また、教員は現状に甘んじることなく、「知・徳・体」のバランスのとれた生徒を育成するために、授業改善や指導力向上に向けて取り組んでいる。多様な取組があり、たゆみなく工夫改善を続けることは教職員の業務量が増すことにつながるが、働き方改革については、データに基づいた良い試行が行われており、他の府立高校に1つのモデルとして示すことができるようになることを期待する。北野高校における取組は充実しており、完成形に近いと考えられるが、国内外の高校や大学などとの交流を通して、新たな刺激を求めつつ、教育活動の成果を積極的に発信し続けていってほしい。平成30年度でスーパーグローバルハイスクールの指定は終了するものの、これまでの蓄積を生かし、さらなる高みをめざして、次のステージへと向かってほしい。その際には、教職員それぞれの専門性や強みを活かして、教科などの枠組みを超え一丸となって取り組んでいけることを期待する。

AA

自己評価の基準 A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下
評価審議会 評価の基準 AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価, コメント, 評価. Rows include: I. 確かな学力の向上を図る, II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をほぐす, III. 高い志をくみ、進路実現をめざす, IV. 教員の指導力向上をめざす, V. 総合的な学力の測定, VI. 課題研究活動, VII. 英語運用能力, VIII. 進学実績.

総合評価

豊中高校のめざすものが、教職員間で共有できており、さまざまな取組みの成果となって現れている。スーパーグローバルハイスクールであると同時にスーパーサイエンスハイスクールでもあり、課題研究など多様な取組みを実施しながら、進学実績についても大きな成果をあげていることは評価できる。まさに、主体的で対話的な学びが深い学びにつながっている好事例であり、他の府立高校にとってもモデルとなるものである。また、生徒の対話的な学びにも視野をいれたアクティブラーニングの普及・定着をめざしており、今後の成果が期待される。課題研究については、SGHとSSHそれぞれの運営指導員から年々プレゼンテーションが向上していると評価されるなど取組みの成果が現れている。また、招待校によるポスター発表など、校内にとどまらず、積極的に他校との交流や外部への発信を行うなど開かれた取組みになっている。スーパーグローバルハイスクールの指定終了後の展開を視野に入れながら、さらなる発展をめざしていただきたい。国際交流や地域貢献を通して、社会との関係性を教育の場に積極的に取り入れており、学びの機会の充実だけでなく、学ぶ場が充実している。社会に貢献する志を持つグローバルリーダーの育成に向けて、豊中高校のさらなる躍進を期待する。

A

自己評価の基準 A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下
評価審議会 評価の基準 AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価.

Summary evaluation table with columns: 総合評価, 評価, 備考. Includes text: 「二兎を追う」たくましい生徒を育成するためのさまざまな取組が行われており、特に授業力向上に向けた工夫改善は評価できる。

自己評価の基準 A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下
評価審議会 評価の基準 AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である

資料2-1

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価. Rows include: I. 確かな学力の向上を図る, II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力を大きくむく, III. 高い志を大きくくみ、進路実現をめざす, IV. 教員の指導力向上をめざす, V. 総合的な学力の測定, VI. 課題研究活動, VII. 英語運用能力, VIII. 進学実績.

Summary row for '総合評価' (Overall Evaluation) with a large text box for comments and a final grade of 'AA'.

平成30年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 府立四條畷高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

資料2-2

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
																		コメント	評価		
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学自習力</li> <li>・言語活用能力</li> </ul>	継続	学習合宿と英語コミュニケーション集中講座の実施	自学の取組における生徒の自己評価 (学習合宿)	88%	80%以上	94%	学習合宿の代替として学習強化日を3日間設定した。定期考査の振り回りと各教科の学習法講座を経て、自学自習に取組んだ。「集中して取り組む」と回答した生徒が94%であった。	A	英語コミュニケーション集中講座の取組についての生徒の評価(肯定的意見)	93%	90%以上	81%	「意欲的に取り組めた」と回答した生徒が81%。「英語でのコミュニケーションに対する興味関心が高まった」と回答した生徒は88%であった。	B	継続	プレゼンテーションの機会と英語の使用の機会をうまく絡めており、生徒の評価も高い。	A		
			充実	プレゼンテーション大会の系統の実施	参加人数	720名	720名	1080名	今年度の新たな取組として11月に英語によるグループ発表を実施した(2年)。1年生は11月にグループ発表を実施。2月には英語スピーチコンテスト(個人)を実施。	A	各種プレゼン大会に向けての取組に対する生徒の評価(肯定的意見)	90%	90%以上	90%	2年生の英語によるグループ発表では、「実現したい社会」をテーマにパワーポイントを用いたプレゼンを行った。各クラスの予選を経て、代表チームが本選で発表した。	A	継続	より深く研究したい生徒を対象とした探究ラボは、グループごとに複数の顧問による指導で、優秀賞を受賞し、生徒の評価も高い。			
			新規	科学的リテラシー	「探究ラボ」による科学的リテラシー育成	取組メニューの数	13個	10個	8個	大阪サイエンスデー(3班10名)、阪大SEEDS(4名)、京大ELCAS(1名)参加。学校説明会では中学生対象に体験授業を実施。外部での発表等。大阪サイエンスデーで優秀賞受賞。	B	「探究ラボ」の生徒による活動への評価(肯定的意見)	91%	90%以上	89%	校内での探究活動に加え、校外での様々なイベントにも積極的に参加している。週に一度の「ラボデー」では各班が研究の進捗状況を発表、研究内容を探究ラボ全体で共有している。	A	継続		校内での探究活動に加え、校外での様々なイベントにも積極的に参加している。週に一度の「ラボデー」では各班が研究の進捗状況を発表、研究内容を探究ラボ全体で共有している。	
	II. 豊かな感性を、たくましく生きるための健康と体力を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・違いを認め共に生きる力</li> <li>・共感性</li> <li>・協調性</li> </ul>	充実	海外修学旅行及び海外からの訪問者受入による国際交流	修学旅行全般についての生徒の評価(肯定的意見)	93%	90%以上	98%	修学旅行(10/16~10/19)では、2年生が台湾に行き、現地高校生との交流を行った。B&Sでは現地大学生との交流を行い、いずれも生徒の満足度は高かった。	A	国際交流に対する生徒の評価(肯定的意見)	88%	80%以上	94%	校内では、オーストラリアの高校生(12月)、台湾の高校生(1月)との交流を実施。1年生で歓迎会を実施し、授業や部活動などでも交流を行った結果、国際交流の充実が図られた。	A	継続	海外修学旅行や海外研修などの国際交流の機会が提供されており、特にベトナム研修では、現地の医療現場での支援を通して、さまざまな課題を知り、その解決策を考える貴重な機会となっている。	A		
			継続	海外研修(オーストラリア・ベトナム)及び国際交流プログラムの充実(1・2年希望者)	参加人数	130名以上	70名以上	122名	ケンブリッジ研修(1名)、国際交流キャンプ(21名)、ベトナム研修(6名)、オーストラリア学生との交流(38名)、台湾学生との交流(36名)。今後、オーストラリア研修(20名)を実施。	A	海外研修参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	100%	90%以上	100%	国際交流キャンプ(9月)、ベトナム研修(12月)の満足度はともに100%。ベトナム研修では医療活動の厳しさや患者への支援の仕方等を学ぶことができたとの意見が得られた。今後、オーストラリア研修(3月)を実施。	A	継続	国際交流キャンプ(9月)、ベトナム研修(12月)の満足度はともに100%。ベトナム研修では医療活動の厳しさや患者への支援の仕方等を学ぶことができたとの意見が得られた。今後、オーストラリア研修(3月)を実施。			
			継続	充実した部活動の維持	部活動の参加率	93%	90%以上	93%	部活動の参加率は1年生で98%、3学年合わせると93%となっている。	A	部活動による入賞件数	76件	60件以上	72件	近畿大会には、男子ソフトテニス、軽音楽、水泳、卓球(女子シングル、ダブルス)、団体、男子チーム)が活躍した。	A	継続	近畿大会には、男子ソフトテニス、軽音楽、水泳、卓球(女子シングル、ダブルス)、団体、男子チーム)が活躍した。			
	III. 高い志を高く、進路実現をめざす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識</li> <li>・高い志</li> <li>・その他</li> </ul>	継続	飯盛セミナーの実施	講座数と参加人数	13講座 488名	10講座 400名	12講座 510名	11/7・8の2日間計12講座を実施した。校内研修9講座、外部での研修を3講座実施。	A	参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	98%	90%以上	97%	外務省、起業、国際ボランティア、研究施設訪問など、様々な内容の講座を実施した。生徒がテーマを選んで受講することができ、自身の興味関心を深めることができた。	A	継続	外部講師によるセミナーや、大学の研究室を訪問することにより、高い志を育むとともに、進路実現に向けたモチベーションアップにつながっており、多くの参加者から高い評価を得ている。	AA		
			継続	大学研究室訪問(東大・京大・阪大・神大)	参加人数	392名	300名以上	330名	本校卒業生の研究室等を訪問し、大学教授による講義を受け研究施設を見学した。大学別参加者数は、東大19名、京大103名、阪大118名、神大80名、九大10名。	A	参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	98%	90%以上	98%	「知的好奇心を刺激するものだった」の肯定率は96%と高く、大学での専門的な研究に触れた結果、自分の将来像を明確化し進路実現への意欲が高まったと言える。	A	継続	「知的好奇心を刺激するものだった」の肯定率は96%と高く、大学での専門的な研究に触れた結果、自分の将来像を明確化し進路実現への意欲が高まったと言える。			
			新規	①登校指導の実施 ②アドプト・ロード・プログラム及び地域清掃活動の取組み	①実施日数 ②のべ参加者数	①168日 ②754名	①160日 ②250名	①168日 ②758名	①登校指導は1/22までに147日。②アドプト・ロード、地域清掃の取組みは部活動を中心に継続的に実施している。	A	積極的に挨拶していることへの生徒の自己評価(肯定率)	91%	90%以上	91%	外部の方に対して生徒が挨拶する姿がよく見られる。学校説明会などでも中学生やその保護者から本校生徒に対して高い評価を得ている。	A	継続	外部の方に対して生徒が挨拶する姿がよく見られる。学校説明会などでも中学生やその保護者から本校生徒に対して高い評価を得ている。			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上</li> <li>・教材開発</li> <li>・その他</li> </ul>	再編	研修の系統的实施及びメンタリングによる教員の相互育成	研修実施回数と参加人数	年4回 195名	年3回 150名以上	年5回 213名	スキルアップ研修(55名)、人権研修(54名)、若手教員自主研修(9名)校務検討研修(60名)、支援に関する研修(35名)を実施した。	A	研修に対する教員の評価(肯定的意見)	99%	80%以上	96%	人権研修の肯定率は91%、若手教員自主研修の肯定率は100%であった。研修の内容を現在の二週に即したものである。	A	継続	月1回実施している初任者ミーティングでは、首席が中心となり、1年めの教員だけでなく2年めの教員も出席し、分掌長や各パートのリーダーからの講話などを行っており、情報の共有を図り、円滑な学校運営に寄与している。	A		
			継続	初任者の指導力向上のための取組み	初任者ミーティング実施回数	12回	12回	12回	各分掌長やミドルリーダーが講師となり、校内初任者研修を実施。2年目の教員もメンターとして適宜参加し、意見交換を行っている。	A	初任者ミーティングに対するアンケートや感想による教員の評価(肯定的意見)	100%	90%以上	100%	初任者ミーティングにメンタリングの要素を取り入れられている。2年目教員のプレゼンや初任者による学校の提言など、活発な議論が交わされている。	A	継続	初任者ミーティングにメンタリングの要素を取り入れられている。2年目教員のプレゼンや初任者による学校の提言など、活発な議論が交わされている。			
			再編	①研究授業及び教員間の授業公開の実施 ②アクティブラーニングへの取組み	①実施回数 ②取組み教員数の割合	①17回 ②88%	①10回 ②80%	①19回 ②75%	研究授業は初任者10回、他9回、年間2回の授業公開期間を設定し、個別の授業見学を推進した。	A	授業力向上に関する学校教育自己診断の評価(肯定率)	92%	90%以上	96%	授業公開期間中、第1回では20名が、第2回では50名が授業見学を実施した。教科を超えた授業見学も多く、よい刺激を与えている。	A	継続	授業公開期間中、第1回では20名が、第2回では50名が授業見学を実施した。教科を超えた授業見学も多く、よい刺激を与えている。			
知識基盤社会をリードする人材の育成	V. 総合的な学力の測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑬10校が共通で実施する学力調査</li> <li>⑭大学入試センター試験への参加</li> <li>⑮大学入試センター試験の結果</li> </ul>																	AA		
	VI. 課題研究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑯課題研究活動</li> <li>⑰コンクール・コンテスト等の成果</li> </ul>																		A	
	VII. 英語運用能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑱英語外部検定試験(TOEFLIBTチャレンジ含む)</li> <li>⑲スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンプへの進学</li> <li>⑳進学実績</li> <li>㉑国立大学への進学</li> <li>㉒海外大学への進学</li> </ul>																		AA	

総合評価	<p>北河内唯一のGLHSであり、「質実剛健」「文武両道」を教育方針としてグローバルリーダーの育成に取り組んでおり、校風や伝統にあこがれて入学する生徒も多い。卒業後、社会において「思考・判断・表現」ができるようにとプレゼンテーションや課題研究発表会などの機会を設けており、引き続き取組みの充実を望む。課題型学習を段階的に構成するのは良い考えであり、グローバルリーダー部を中心に組織的に取り組む体制により、全生徒を対象に課題研究に取り組ませていることは高く評価したい。特に発展型の「探究ラボ」は今後も活用していきたい。特に発展型の「探究ラボ」は今後も活用していきたい。特に発展型の「探究ラボ」は今後も活用していきたい。</p> <p>課題研究の深化・拡大の取組のみならず、英語教育においても、4技能のバランスの取れた育成をめざし、特にスピーキング力の強化が行われている。2年生を対象とした英語によるプレゼンテーション大会を新たに実施するなど、成果を披露する機会も設定している。このプレゼンテーション大会を通して、スピーキング力だけでなく、オリジナルの英文を作成することによるライティング力向上、文献を読むことによるリーディング力向上、発表を聞くことによるリスニング力向上をめざすと同時に、ルーブリックを活用した評価を行っており、育成した力が明確に示されている。また、四條畷市のプロモーションビデオ制作や、ボランティア活動など、地元との連携も強化されており、さまざまな体験を通して、グローバルリーダーの育成に取り組んでいる点を評価したい。</p>	A
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---

自己評価の基準
A...計画以上
B...おおむね計画通り
C...計画以下
評価審議会の評価の基準
AAA...きわめて高い成果をあげている
AA...高い成果をあげている
A...成果をあげている
B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価

総合評価

課題研究について、現状に満足することなく、更に質の高い課題研究を進めていく姿勢を高く評価したい。特に、誰でも指導できるカリキュラムとして課題研究を位置づけ、担当者が変わっても継続できるようなマニュアルづくりを行い、指導案やバワ原稿も共有できるものを作ることによって、次年度以降の課題研究がますます期待できる。ポスターセッションの質も極めて高く、テーマが教科などに縛られずに幅広いことも「自由と創造」という高津高校の理念が土台になっているといえる。進捗実績については、前年度の実績との比較のみならず、数年間の実績をみながらさまざまな観点で検証し分析したうえで、進捗実績を伸ばすために何が効果的か、各取組の成果検証をおこなっていただきたい。ボランティア活動や支援学校との交流など社会性を育む体験型の学習や、食堂を改装したラーニング commons を活用した活動も展開されており、創立100周年を迎えて、高津高校のさらなる飛躍を大いに期待する。

A

自己評価の基準
A...計画以上
B...おおむね計画通り
C...計画以下
評価審議会
評価の基準
AAA...きわめて高い成果をあげている
AA...高い成果をあげている
A...成果をあげている
B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価. Rows include school-specific activities (I-III), social contribution (IV), and general education (V-VII).

総合評価

天高スタンダード・天高育成プログラム等、ビジョンの見える化により、「チーム天王寺」として、方向性を共有して学校全体で組織的に取組みが進められていることを高く評価したい。生徒に対して、互いに尊重することや高い志を育む取組を行うとともに、学習の目的や将来どのように社会に貢献するかを意識し、切磋琢磨するように指導しており、その成果がみられる。教職員間の関係性が天王寺高校の特徴として高まれており、新規採用者を含む経験年数の比較的少ない教員の資質向上にも活かされている。注目すべき点として、ルーブリックの開発があげられる。新学習指導要領が求める観点別評価について、SSH担当者とGLHS担当者が一緒に委員会を形成し、専門性などを超えて連携して、これまでの成果に基づく洗練されたルーブリックの開発が期待できる。開発したルーブリックについては、検証および検討を重ね、より信頼性の高いものとなるよう努めていただきたい。授業改善の動きも活発である。「わかる授業」ではなく、「わかりたい授業」をつくらうと、府外の高校へ見学に行ったり、発問の精度をあげることに取り組んでおり、より質の高い授業の実践が期待できる。

AA

Table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審査会の評価コメント, 評価. Rows include categories like 'I. 確かな学力の向上を図る', 'II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはくむ', 'III. 高い志をはくみ、進路実現をめざす', 'IV. 教員の指導力向上をめざす', 'V. 総合的な学力の測定', 'VI. 課題研究活動', 'VII. 英語運用能力', 'VIII. 進学実績'.

総合評価

大阪の伝統校の中にあつて、「生野高校らしさ」を大切にされた学校運営がなされている。単に進路実現をめざした学習ということではなく、バランスの取れた生徒、これからの社会において活躍する生徒を育成しようと学校全体で取り組んでいる。部活動やSSHの取組みなど、さまざまな教育活動が充実している。部活動においては、全国大会で3位になるなど高い実績をだしており、バランスの取れた生徒の育成がなされていることを評価したい。SSHの取組みについても、中間評価において高い評価を受けており、今後さらなる充実・発展を期待する。文理学科のみの募集となり、今後300人以上の生徒を対象とした課題研究をどのように実践していくかがポイントとなるが、既に委員会を立ち上げて、研究を続け、枠組みができており、これまでの課題研究の質の高さを維持していただきた。学校全体の組織づくりとして、教職員の経験年数に応じて、役割分担を行っており、各分掌や委員会の業務が円滑に進められているだけでなく、教科指導などにおいても、各教員の強みを発揮するとともに、優れた実践を共有することにより指導力の向上につなげている。令和2年度には100周年を迎えることとなり、さらなる飛躍に向けて躍進していただきたい。

A



平成30年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート

府立三国丘高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおよそ計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・数値の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

資料2-10

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	小項目「はぐくみたい力」 ・言語活用 ・ICT活用 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	1. 基礎学力及び自学自習力の向上	①隔週土曜授業の実施 ②三丘エクゼレンス、三丘スタディーハートの充実 ③成績不振者講習の実施(1・2年生)	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数(実施教科)	・15回 ・70回253回 ・81回	・15回 ・50回以上 ・400回以上 ・学期に15回以上	・15回 ・91回246回 ・82回	・土曜の隔週実施 ・発展的な内容などの講習を実施 ・定期考査間に成績不振者講習を実施して基礎学力の向上を図っている	B	・アンケートや感想 ・1・2年生での自学自習を2時間以上行う生徒の割合 ・補充講習への出席率	・57% ・14年 ・34%、2年 ・55% ・100%	・肯定的意見60%以上 ・50%以上 ・100%	・56% ・1年54%、2年45% ・100%	土曜授業により、単位数増加。文理学科・普通科でも授業時間数増加。成績不振者へも丁寧にフォローを行っている。	B	充実	A	自学自習を2時間以上行う生徒の割合については、1年が目標値を上回り、前年度実績から大きく伸びているが、2年生は、単に前年度実績と目標値と比較するだけでなく、生徒がどのように過ごしているか把握したうえで改善を図らねばならない。読書にかかると取組は、文章力だけでなく、表現力にも充実がもたれており、成果が期待できる。	
			2. 読解力リテラシー育成	④読書指導の充実 ⑤文章要約、文章能力の育成	・読書案内の発行 ・読書記録による指導(1・2年生全員)	・図書貸出し ・記録シートを提出	・年間3回 ・内容充実 ・学期提出	・図書貸出しを5回発行 ・読書記録を11回提出	・「図書貸出し」を毎月1作品分読書記録を提出させて日常的な読書を推奨し、感想文を提出させ点検している。	A	・読書記録提出による自主読書量 ・2年次は課題図書読書のノート	・1年課題図書5冊 ・自由読書5冊 ・2年課題図書9冊 ・自由読書9冊	・1・2年課題図書年間5冊以上	・1年14冊 ・2年9冊	読書量を増加させ、文章力育成に繋がっている。	A	継続			
			3. 科学的リテラシー、ICT活用能力及び課題解決能力を育成	⑥「課題研究(CS研究)」などの充実 ⑦プレゼンテーション能力の向上	・大学研究室の訪問回数 ・CS研究I・IIの充実 ・校内外での発表会等でのプレゼン	・11回(東大、京大、阪大、市大、府大) ・文理学科1,2年毎週実施 ・のべ21回	・10回 ・毎週継続実施 ・のべ年間10回	・8回 ・文理学科1,2年毎週実施 ・理系4回、文系3回、GTEC対策11回実施	・東大、京大、阪大、市大、府大の研究室を訪問 ・1年で課題研究基礎、2年文理学科、SSH+SGH1で課題研究を毎週実施 ・CS1で文理学科2年生は中間発表を実施。SSH全国大会、SGH1年生課題研究発表および2年生海外研修にて課題研究発表	B	・「課題研究(CS探究)」の発表回数 ・実施後のアンケートや感想	・21回 ・89%	・口頭及びポスター発表15回以上 ・肯定的感想・意見が80%以上	・24回 ・88%	様々な発表の機会や課題研究によって、生徒の問題意識の深化や発表技術の向上が見られる。	A	充実			SSH+SSHともに充実した取組を行っていることが、生徒の肯定的意見・感想の数値の高さからもうかがえる。外部講師を招き、プレゼンテーション力の向上を図っており、効果的な外部人材の活用ができています。
			4. 英語運用能力の育成	⑧4技能統合型授業の実施 ⑨英語の特別レッスン	・実施回数 ・実施回数	・授業として、1.2,3年に実施 ・理系4回、文系6回ののべ10回実施	・1・2年毎週実施 ・文系・理系ののべ10回	・授業として1.2年に毎週実施 ・理系4回、文系3回、GTEC対策11回実施	・1年全クラスで週2回、2年は文系週1回実施 ・海外事前研修、GTEC対策講座などとして実施	A	・アンケートや感想 ・各種4技能型英語外部テストの受験者数 ・特別レッスン参加者数	・80% ・GTEC360A、TOEFL1 ・BT55A受験 ・延べ86人参加	・肯定的感想が20%以上 ・150人以上 ・肯定的感想が80%以上	・84% ・GTEC375A、理系115人、TOEFL22人、TOEFL181人 ・GTEC375A受験 ・延べ70人	4技能型授業の成果の学年全体への広がりが見込まれる。	A	継続			英語運用能力の育成については、スマートフォンなどを活用したスキミングの向上を図っており、さらなる成果が期待できる。
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をばくむ	小項目「はぐくみたい力」 ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力	5. 違いを認め共に生きる力の育成(異文化・国際理解)	⑩海外スタディ・ツアー等の充実 ⑪海外生徒との交流や留学生の受け入れ	・スタディツアー参加人数 ・交流・留学受け入れ人数	・111人参加 ・2年全員海外留学旅行 ・86人本校交流	・100人 ・70人	・米国リーハイ大学31人、フィリピン19人、NASA26人、SSHセミナー1人、3月にオーストラリア語学研修30人・韓国、台湾、フィリピン、アセアン諸国より大学生高校生来校	A	・アンケートや感想による生徒の評価(肯定的な意見)	・肯定的評価大半	・肯定的評価100%	・100%	海外の生徒との交流や4技能型授業や課題研究の成果として、海外進学者への関心が高まってきている。	A	継続	NASAでの研修や、大学で講義を受けてビジネスプランを考案する米国研修などについて、肯定的評価は100%であり、海外における高度な学びが生徒のさらなる成長につながっていることは大いに評価できる。			
			6. 違いを認め共に生きる力の育成(ボランティア活動)	⑫地域ボランティア活動への参加	・幼稚園や小学校等の世代間交流(防災宿泊訓練含む)の参加人数 ・地域中学校と連携した科学教室の実施	・55人参加 ・100人	・40人 ・のべ100人	・67人 ・104人	小中学生と合同防災宿泊訓練、2回の科学教室など多様な角度で実施予定	A	・アンケートや感想による生徒の評価(肯定的な意見)	・肯定的評価大半 ・肯定的評価100%	・肯定的感想が80%以上 ・参加者の肯定的意見80%以上 ・参加者の増加	・100% ・昨年より8人増加	学ぶ喜びとともに、学んだことを伝えて指導する体験は、自らの学ぶ姿勢重要な役割を果たしている。	A	継続	合同防災宿泊訓練など、社会的貢献の取組も充実しており、学びを広げることを通して、生徒自らの学びがより深まることを期待できる。		
			7. 健康・体力・協調性と豊かな感性の育成	⑬部活動の振興 ⑭学校行事の充実	・部活動参加促進 ・学校行事(文化祭、体育祭、芸術祭、マラソン大会)実施	・95% ・内容充実 ・無事故で実施	・95% ・内容充実	・12年で96% ・各行事は、生徒会が中心となり実施。文化祭は、演劇や後夜祭等で内容を充実した。行事は、全て安全に無事故で実施できた。	A	・大阪府代表や近畿全国大会への参加・出場件数 ・アンケートや感想による生徒の評価	・全国8件、近畿大会7件 ・肯定的感想が大半	・5件 ・肯定的評価90%	・近畿大会16件 ・肯定的感想が大半	多くの生徒が部活動に加入しており、全国大会や近畿大会に出場するなど高いレベルで活躍している。社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や各種研究講演会も充実していること、医療インターシップの実施により、現場を知ったうえで進路選択を行なうようとしており、生徒の肯定的意見が100%であることは大いに評価できる。	A	継続				
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目「はぐくみたい力」 ・規範意識 ・高い志 ・その他	8. 高い志を育み進路実現を果たす	⑮社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や各種研究講演会の実施・充実 ⑯東京方面キャンパスツアーの実施 ⑰大学見学の実施 ⑱医療インターシップの実施	・講座(講演)の開催回数 ・参加人数	・30回 ・19人 ・571人 ・28人	・25回 ・20人 ・450人 ・50人	・47回 ・13人 ・272人 ・55人	・難関国公立大学(10大学)への進学者数(東大、京大、阪大、北大、東北大、名大、九大、神大、市大、府大) ・国公立大学医学部医科学進学者数 ・アンケートや感想による生徒の評価	B	・160人(現役113人) ・8人 ・肯定86%	・150人以上(調査100人以上) ・10人以上 ・肯定的評価80%以上	・161人(現役105人) ・6人 ・100%	高い志をもち、文武両道の・切磋琢磨の精神で、最後まで頑張っている。	B	充実	多くの生徒が部活動に加入しており、全国大会や近畿大会に出場するなど高いレベルで活躍している。社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や各種研究講演会も充実していること、医療インターシップの実施により、現場を知ったうえで進路選択を行なうようとしており、生徒の肯定的意見が100%であることは大いに評価できる。			
			9. 規範意識の醸成	⑲遅刻指導の徹底 ⑳朝のあいさつの奨励 ㉑リーダーズ研修の実施	・教員による校門指導と担任、教科担当の指導 ・年間12回の実施	・日常実施 ・12回実施	・校門指導を日常的に実施 ・年間12回の実施	・日常実施 ・13回実施	・校門指導や登校指導を校長、教頭、担任、若手教員で日常的に実施 ・リーダーとしての資質の向上を図っている。	A	・1日1クラスあたりの遅刻人数	・0.28人(1,365件)	・0.5人未満	・0.25人(1,211件)	昨年より減少している。生徒指導の効果も表れている。今後も指導を継続していく。	A	継続	遅刻数の減少も成果が現れており、引き続き取り組んでいきたい。		
			10. 授業力向上	㉒授業改善に向けての取り組み ㉓保護者への授業公開の実施 ㉔公開研究授業及び研究協議の実施 ㉕アクティブラーニングやICT機器活用授業の研究 ㉖他校で実施される研究授業への積極的参加 ㉗民間教育産業等との連携によるスキルアップ研修参加	・全教員が改善シート提出 ・全員にフィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修及び授業見学実施回数 ・参加人数	・全教員提出 ・全員フィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修及び授業見学実施回数 ・他校や予備校に48名参加	・全教員提出 ・全員フィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修及び授業見学実施回数 ・他校や予備校等に77名参加	・各個人が改善に取り組むのは勿論、科目、教科単位、学年などでも討議して全体として授業力向上に取り組んでいる。	B	・授業アンケートによる授業満足度	80%	・80%以上	・85.2%	授業の相互見学や改善への取り組みの成果を期待している。	A	継続	授業改善に向けての取組については、校内での授業観察によるフィードバックなどに限らず、他校や民間の教育産業との連携によるスキルアップが図られており、英語の4技能統合型の授業における工夫・改善や、理系科目における探究型授業の実践が行われ、生徒のさらなる学力向上が期待できる。			
IV. 教員の指導力向上をめざす	小項目「はぐくみたい力」 ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	11. 進路指導力向上	㉘新旧3年担任を中心とした進路指導研修の実施 ㉙各学年業者模試実施後の研修実施 ㉚センター試験分析研修の実施	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数	・3回実施 ・4回実施 ・1回実施	・年間1回 ・4回実施 ・年間3回 ・1回実施	・難関国公立大学(10大学)への進学者数(東大、京大、阪大、北大、東北大、名大、九大、神大、市大、府大) ・国公立大学医学部医科学進学者数	B	・担任の進路スキル向上を図るために各種分析報告会や研修を実施。	・160人(現役113人) ・8人	・150人以上(現役100人以上) ・10人以上	・161人(現役105人) ・6人	高い志をもち、文武両道の・切磋琢磨の精神で、最後まで頑張っている。	B	充実	進路指導研修や外部模試実施後の研修の実施など組織的に取り組んでいる点を高く評価したい。				
		12. 初任者・転入者に対する指導力向上支援	㉛校内研修の実施	・研修実施回数	・11回	・10回	・11回	進路研修等さまざまな内容にわたって研修を実施している。	B	・初任者、転入者に対する生徒の授業満足度の向上	0.75%向上	・授業アンケート肯定的回答率1%以上の向上	-1.6%	初任者および転入者の授業に対する生徒満足度が、第1回目と2回目を比較して減少	B	継続	授業改善の取組みや各種研修を通じて、初任者や転入者を支え、引き続き高い学びの実現に向けて取組を進めていきたいと思います。			
		13. 10校が共通で実施する学力調査							学力調査の結果											評価審議会資料3に明記
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	小項目「はぐくみたい力」 ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	14. 大学入試センター試験への参加						大学入試センター試験	5教科7科目受験者の割合	85.9%	85%	86.8%		B	継続	AA	大学入試センター試験について、5教科7科目受験者の割合が、前年度実績および目標値を上回ることに、得点率8割以上の者の割合についても同様に前年度実績および目標値を上回っていることは評価できる。		
			15. 大学入試センター試験の結果							5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	30%	30%	32.2%		A	継続				
			16. 課題研究活動							校外での研究発表グループ数	29グループ	30グループ	26グループ	SGH11、SSH1、大阪サイエンス、学生科学6、生物1、化学1、GLHS1	B	継続			B	校外での研究発表グループ数および府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数について、ともに目標値には到達しなかったものの、これまで多くの受賞者数を輩出してきた実績もあり、校外での研究発表の機会を確保し、さらなる研鑽を期待する。
	17. コンクール・コンテスト等の成果							府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数	35人	30人	28人	SGH14、科甲6、物理1、翻訳2、情報等5	B	継続						
	18. 英語外部検定試験(TOEFLiBTチャレンジ含む)								GTECスコア(1・2年全員受験)	Grade7: 5人 Grade6: 26人 Grade5: 200人	Grade7: 5人 Grade6: 25人 Grade5: 200人	Grade7: 61人 Grade6: 81人 Grade5: 306人		A	継続	1・2年全員が受験をし、全てのGradeで素晴らしい結果を出しており、英語教育の質の高さは大いに評価できる。				
	VII. 進学実績	小項目「はぐくみたい力」 ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	19. スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学							スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数(1浪含む)	105人	90人	97人		B	継続	AA	スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は、難関国公立大学等の全合格者数および国公立大学現役進学者数は目標を達成している。生徒の進路希望実現に向けて、進学指導研修や外部模試実施後の研修の活用を期待する。		
20. 進学実績									難関国公立大学等(東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科)の全合格者数(現役・浪人)	132人	120人	127人		B	継続					
21. 国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	156人	140人	146人		B	継続	海外大学進学については、これまでの実績もあり、国内大学への進学と同様に引き続き取り組んでいきたい。				
22. 海外大学への進学								海外大学進学者数(1浪含む)	3人	1人	未定	香港大学1名受験 結果まだ	-							

総合評価

古墳をはじめ歴史を感じる境の地にあり、校内の建物や同窓会館の展示物にも歴史が感じられる。そのような環境の中、三国丘高校としての伝統を守りつつ、SSHやSGHの取組など新たなことにも挑戦している。SSHとSGHそれぞれの取組を積み重ねてきた中で、成果を共有することで、さらなる工夫・改善が進んでいる。SSHとSGHともに指定を受けている学校の強みを活かし、互いに切磋琢磨することで、さらに効率的で効果的な指導が可能となり、結果的により質の高い課題研究が実践されていることは高く評価したい。卒業生の活用や高大連携の充実が図られており、SGH終了においても、これまでの実践を礎に、課題研究がさらに発展的なものとなることを期待する。課題研究以外でも、学びの成果を活かす取り組みがなされている。防災宿泊訓練では、三国丘高校が作成した「防災かるた(三丘かるた)」を使用し、小学生とともに防災について考える機会を設けている。また、この防災宿泊訓練では、堺市の協力を得てワークショップを開いており、地域との連携も行われている。府教育センターの研修を活用し、初任者への公開授業等を実施するなど授業力向上のための取組みも進んでいる。生徒の自学自習の時間の確保などの課題はあるが、生徒の状況について、データに基づき分析がなされており、今後の対応による効果を期待する。

A

平成30年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 府立岸和田高等学校

資料2-3

評価基準の表: 自己評価の基準、評価審議会評価の基準、AAA...極めて高い成果をあげている

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価, コメント, 評価

総合評価: グローバルリーダーズハイスクールとして、岸和田高校がこれまで進めてきた取組みを「見える化」し、生徒・教員が共有できるよう工夫している。課題研究と英語の取組みを統合するなど、さまざま取組みがうまくつながり、GLHSのめざすひとつのモデルになっていると言える。特に授業改善の取組みは学校全体で方向性を共有し、成果を上げており、全校的・組織的にアクティブラーニングがなされている点を評価したい。